

先輩医師からのメッセージ

(所属等は2月末執筆時現在です)



「同期との写真」 筆者:最後列一番右

消化器内科医の魅力

夏井 一輝 先生

【勤務先病院】新潟大学医歯学総合病院

【所属診療科】消化器内科

【出身大学】新潟大学

新潟大学医歯学総合病院 消化器内科4年目の夏井一輝です。新潟大学を卒業し、研修医～3年目を長岡中央総合病院で勤務し、現在大学病院で勤務しています。

私が消化器内科医になろうと思った理由は2つあります。1つ目は以前から膵臓診療に興味があったからです。膵臓は診断時には既に治療の選択肢が限られていることが多く、非常に予後不良です。日々の診療に加え、早期発見・著効する治療の開発により辛い思いをする患者さんの一助になりたいと思っていました。2つ目は消化器学は食道～大腸までの全消化管に加えて肝・胆・膵と扱う臓器が幅広く、血液検査・内視鏡・US・IVR・画像検査など、学習・習得すべきこともたくさんあり、勉強していて飽きないだろうと思ったからです。自分で診察・検査、診断、処置、治療と進めていくことは非常にやりがいを感じます。

「患者さんの立場になって考えるんだ。」これは大昔に言われた言葉で、今の私の物事を判断する上での支柱となっています。医師として当たり前なことですが、実際に主治医として診療することで、その言葉の意味を分かってきました。熱心に丁寧に指導して下さる上級医の先生方に感謝の気持ちを忘れずに、患者さんに寄り添って病に挑んでいく医師でありたいと思います。消化器内科に興味のある研修医の皆さん、共に情熱を持って精進していきましょう!



救急研修で学べること

川井 洋輔 先生

【勤務先病院】新潟市民病院

【所属診療科】救急科

【出身大学】新潟大学

専攻医として救急の勉強を始めさせてもらい2年が経ちました。救急分野は人工呼吸や体外循環などが目立ちますが、それと同じくらい(時にはそれ以上に)適切な初期対応と保存療法を行い最善のタイミングで専門家につなぐ知識や判断、時間帯や患者背景に左右されず基本的な観察を抜けなく行う精神力、患者家族心情や倫理面に配慮する対応力など基礎的な部分が重要だと日々実感し反省しています。これらはどの初期研修病院でも経験できることですので、救急研修はどの分野に進むにせよ役立つ基

礎体力をつける場だと思って活用していただければと思います。

新潟県には独特の素晴らしい文化を持つ多くの地域があります。もちろん住む場所によって提供される医療は均一ではありませんが、人が住み続け文化が維持されるために最低限の救急体制は必要ではないでしょうか。縦に長く離島もあり、山間地が多く雪も降る、簡単に集約化できない新潟でこそ救急医療で培う力が地域で活けると考えています。決して救命救急センターだけが救急医療の場ではありません。多様な働き方や働く場が許容される分野かと思いますので、研修をして興味を持ってくださった方がいれば是非一緒に頑張りましょう。